第 2018-02 号

恵みと真理のニュース

2018 年 1 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

教会と国の希望である子供達を主の御言葉と愛で養育する清い教師の使命を下さり、献身するように導いてくださった神様に感謝します

私は子供の頃、お祖母さんをついて教会に通うようになりました。その時は聖書の御言葉が難しくて救いの意味についてよく知らなかったですが、教会に行くが好きで親の秘かに教会を通いました。熱心に教会に通って聖霊を受けて日々神様にだいする信仰と愛が育ちました。小さい教会だからまだ学生の身分でも幼い弟達を教える教師の職分をくださって奉仕し始めました。しかし、学校を卒業して職場を通いながら主をはなれ世の中に属した生活をしました。聖霊様の導きと教えに従わなくて聖霊を消滅してしまい、結局は信仰がないものになりました。しかし、心の一つには主がおられて、主のところに戻りたかったです。
そうする中で恵みと真理教会の区域長に会いました。区域長の助けで金曜礼拝に参席しました。その日、説教御言葉を通して神様の御声を聞き涙を流し神様に悔い改めました。聖霊様が主の初恋を回復させてくださいました。　神様の恵みと愛に感謝して新たな心と覚悟で信仰生活をしました。教会学校で奉仕しながらもっと聖霊で満たされました。熱い愛と熱情で神様に任せた学生達を仕えました。幼い学生達を見守ることが本当に喜んで感謝しました。そうしながら結婚と出産で一時期奉仕を休みました。再び奉仕し始めましたが、その間私の信仰と使命感は弱くなっており、ただ主日だけ守る習慣性の奉仕でした。教会生活、家庭生活より職場生活をもっと優先して生きました。すると、主が愛の鞭を打ちました。気が付いて振り替えてみたら私の子供達は主日礼拝もしないほど魂が病気にかかっていました。教会学校の学生達の数が減っていました。私の子供達を見てもとても心が痛くて気の毒で恥ずかしく申し訳ない心でした。教師の使命を疎かにして熱心に祈りもしなかった罪を深く反省して涙を流しながら悔い改める祈りをしました。
再び帰って来るのを願いながら相変わらず待ってくださるイエス様がおられました。恵みと権能の御言葉を下さり、励ましたくださる当会長の牧師がおられました。"主よ" 私がどのようにしたら良いのか。知恵をくださっり新しい力と能力をくださると神様に祈りました。そして、私のクラスの伝道目標を建てました。除籍子供が１００%出席と一人が一人ずつ伝道して倍でリバイバルする目標を建てました。長期間欠席する中で学生達を探して親と学生に出会って愛の交際を分かち合ました。親に伝道目標を知らせて共に祈りました。幼い子供達が必ず主日を守り信仰が育てられると親にも真実な信仰が必要だから、まず家庭福音化と親の信仰が成長ため祈りました。学生達に多くの関心と誉め言葉と同じ目線で話すため子供のような心と思いを求めて神様に祈りました。
　土曜日ことに部署の総務をはじめ先生と共に教会の近い公園、学校、遊び場を回しながら伝道しました。神様に熱心をくださいました。長期欠席をした一人の魂のため切に祈りながら直接に訪問しました。小さいプレゼントを準備して心を伝えたとき、親が感謝しながら心の扉を開いてくれました。そんな努力と神様の恵みでついに私のクラスが１００%出席して倍成長する目標を成し遂げました。　友達を伝道したいが友達の親が許可してくれなくてとても残念で夜ことに友達のため祈った子供が"先生、喜ぶ話があります。友達を伝道しました。と共に喜んで感謝をささげた子供、主日ことに友達を伝道して伝道大長と呼ばれた子供、友達の伝道で教会に通うようになった後、妹を伝道してお父さんとお母さんも伝道してすべての家族が礼拝を捧げるのが嬉しいと主日を待ち望んで御言葉を愛する子供、このような尊い子供の魂を仕えるようにしてくださった神様の恵みに感謝します。
神様は私の子供達の信仰も回復して下さり、育つようにしてくださいました。子供達は私と共に教会学校と学生達を仕え教師として奉仕しています。奉仕をはじめった当時は弱い信仰で多く大変でさ迷いましたが、神様は私の祈りを聞いて下さり、信仰の上に信仰を与えて下さり、聖霊で満たしてくださって楽しく教師の職分を担えています。問題の前で挫折しなくてその問題の上におられる神様を見上げる信仰を子供達にくださいました。
知恵が足りないときことに弱いことに、疲れを感じるときことに知恵をくださって力を下さる神様、信仰と愛の熱情をくださって恵みで献身するように導いてくださった神様に感謝します。教師たちのため御言葉で励まして下さり、使命感を下さり祈りで祝福してくださる教役者達にも感謝します。
異端か多くて間違った世の風がはびこるこの時代に国と教会の希望である子供達と青少年達を主の御言葉と愛で養育する教会学校の教師の大きい使命を考える時、重い責任感も感じます。一方で真実な子供達と教師のモデルになる先生達を見ながら大きい慰めと力を得ます。" あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。" （マタイによる福音書28：20）
尊い使命を下さり福ある約束の御言葉をくださった神様を賛美します。
" いつも 喜んでいなさい.　絶えず 祈りなさい.　どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト.イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。 霊口の火を消してはいけません。 預言を軽んじてはいけません。 すべてを吟味して、良いものを大事にしなさい。 あらゆる悪いものから遠ざかりなさい。

［信仰コラム］　神霊な判断と分別

". . . わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いないで、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである. . . "（コリントの信徒への手紙一 2:13、14）

人々は学びと経験を通じて分別力が育ちます。しかし、人の知識と経験には限界があります。その限界を越えるためには聖書に記録された御言葉を聞かなければならなく聖霊様の助けを受けるべきです。そうしないといかに優れた知識人だとしても神霊なことに関しては全く分別することができません。
まず、聖書と聖霊様によってだけ分別することができることに関して調べてみます。
第一は、究極的な質問に関することです。数多くの人々が自分が ' どこから来て何で生き、どこに行くのか ' という質問すなわち存在の原因と理由、目的に対する質問に正しい答えを持っていません。自分の知恵で神様を知らせようとして救いの真理を知ろうとするのはまるで神様が隠されたことを探そうとするのと違いありません。しかし、子供のように神様の御言葉を順々に受け入れると創造主に会います。そうすると万有の存在根元と理由、目的を分別するようになります。万物は聖三位神様によって存在し、神様のために存在するということを知るようになります。第二は、救いに関することです。聖書に記録された御言葉と聖霊の教えを受けると人間が何で罪人であるのかを分かります。罪人は神様の怒りの下にあり結局、審判を受けて滅びるということとその滅びが地獄刑罰ということを知ります。そして罪人がどのようにして救いを得るようになるのかを分別するようになります。救いの恵みと真理は聖書に記録された御言葉と聖霊様の教えを通じてだけ分別するようになります。
次は、私達が直面する事事と状況に対していかに分別すべきかをヤコブとヨセフを対比して調べてみます。
ヤコブは 11 番目の息子であるヨセフを特に愛しました。これによって兄達がヨセフを嫉妬しました。兄達はヨセフを大商に売り渡して彼らがヨセフから脱がした服を雄のヤギの血を浸し父親に見せました。ヤコブが血が浸された服を見て自分の服を裂き麻の衣服を腰に巻いて数日息子のために哀哭しました。しかし、ヨセフはエジプトで 13 年後にエジプト王の寵愛を被るようになり総理の座に上がるようになったのです。
ヨセフは少年時代に自分の家族達の中で指導者になるのだけではなく更に、国を治める位置に至る奇異な夢を見て、夢見たのを話して兄達の憎しみを買いました。聖書に " 兄弟たちは彼をねたんだ。しかし父はこの言葉を心にとめた。 " としました。その夢が将来に対する預言的な夢でヤコブに認識されたからです。ヤコブはその夢話しをずっと心に置いてヨセフに関連した事件を分別する基準として扱うべきでありました。万が一、そうしたならそのようにしんどい哀痛と嘆きをしなかったであり、度が過ぎた心配をしなかったでしょう。
その反面、ヨセフは彼の少年時代に神様が夢を通じて与えてくださった約束を忘れずに固く握ったので波乱万丈な過程を良く耐えていきました。信実でおられる神様と神様が与えてくださった約束で彼が直面する事事と状況を分別したので希望と大胆、誠実で一貫した生活をしました。現実が彼の期待とは正反対に進行される時にもヨセフは絶望しませんでした。神様がどのように約束を叶えられて悪を善に変えてくださるのかを調べながら忍耐しました。ヨセフの判断と分別が正しかったのを神様が結局、証明してくださいました。
私達はヨセフの夢より確実な分別基準を持っています。多くの約束が記録された聖書を持っています。皆さんは、この世で生きる間に皆さんが当面する事事と様々な状況に対して神様の品性と言約の御言葉を持って分別してください。何事に会っても " これは全て私に有益になることである " 、 " 神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている " と話してください。皆さんのこのような判断と分別が正しいというのを神様が証明してくださるのを体験するでしょう。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

愚かな質問に賢明な答え

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

私たちの一生の中に、まるで終わりが見えない真っ暗で、長いトンネルの中に入ってきたような暗澹たる現実に直面することがあります。たび重なる苦難と解けない問題を抱きしめて身をよじてみると孤独と悲しみ、不安と怒りが混じるになって心をやっ押すされます。私たちの心が混乱すると、神向けへの私たちの信仰も損傷と打撃が与えます。心の状態と信仰の状態は相互に作用し影響を与えます。したがって、心の安定が非常に重要です。箴言に記録されることを**「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」（箴言，4 :23）**としました。私たちが患難に会い苦境に直面すると、まず心を治め信仰を強固にするように努力しなければします

今日の聖書の本文である詩篇 77 篇は患難の夜に会って疑いや不安、 心配と不満が襲って来る際に、これを治め信仰を堅固にした詩篇の記者の体験的告白であり、証しです。詩篇 77 篇は、試験と患難の夜に出会った者にこれを対処する知恵を提供してくれます。そして、この御言葉に従って行なえば試験と患難の夜を十分に克服することができます
詩篇 77 篇 1 節と 2 節に記録されるのを**「わたしは神にむかい声をあげて叫ぶ。わたしが神にむかって声をあげれば、神はわたしに聞かれる。わたしは悩みの日に主をたずね求め、夜はわが手を伸べてたゆむことなく、わが魂は慰められるのを拒む。」**としました。
詩篇の記者は苦難の日に神を見つけた。そして、神に叫びました。彼は、自分が神に叫べば、神様が耳を傾けてくださることを知ってまた信じていました。彼は自分自身の神に熱心に祈りました
神の応答を期待して受ける準備をして、それを歓迎する者のように両手を挙げて祈りました。ところが、そのように祈りましたが、状況は好転しなくて、むしろ悪化しました。それほどう不満に陥り始めた「私の魂が慰めを受けることを拒否した」と言う状況に至っています。熱心に祈りていた人がある日、心に波のように押し寄せてくる疑いを防げなければ、大きな混乱を経験するようになります。「祈りが何が良いのか、むしろ時間たけ無駄にするしかない。」という考えに支配されると、その心は外に慰めを受けるところがなくなってしまいます
3 節と 4 節に記録されるのを**「 わたしは神を思うとき、嘆き悲しみ、深く思うとき、わが魂は衰える。（セラ）あなたはわたしのまぶたをささえて閉じさせず、わたしは物言うこともできないほどに悩む」**しました。
詩篇記者は、自分が受ける苦難に対して神と関連して、否定的な考えが心になっています。彼の深い神が自分を懲罰しているではないかと考えるようになると、不安と心配が一層加え精神が傷つけました。患難を受けて神を誤解すると、悲しみと不安が加重されて頼らなければならない、神をかえって恨みになります。

ヨハネによる福音書を見ると、ラザロの姉妹たちが主を恨む場面があります。マルタとマリアの兄ラザロが突然病気が急激に悪化しました。すると、その姉妹たちがイエスに人を遣わし送っていました。イエスは彼らに戻って来たときは、ラザロが墓にあった、すでに四日になりました。イエスを迎えに出たマルタがイエスに言った、「主よ、主がここにおられたら兄が死んでなかったことです。」としました。マリアもイエスを見てその足もとにひれ伏して言う「主よ、主がここにおられなら、兄が死んでなかったことです。」としました。マルタとマリアは兄が死んだ理由を、イエスが一歩遅れて来られたからだと思って恨む言葉をしました。患難の理由を主から探すような態度を見習わないでください
5 節で 9 節に記録されるたのを**「 わたしは昔の日を思い、いにしえの年を思う。
わたしは夜、わが心と親しく語り、深く思うてわが魂を探り、言う、「主はとこしえにわれらを捨てられるであろうか。ふたたび、めぐみを施されないであろうか。そのいつくしみはとこしえに絶え、その約束は世々ながくすたれるであろうか。神は恵みを施すことを忘れ、怒りをもってそのあわれみを閉じられたであろうか」と。[セラ]**しました。
詩篇の記者は心を保持して、このような精神的な落ち込みと混沌から抜け出し表示しようとしました。そして以前にも、彼は苦難と逆境を当たった時があったことを思い出しました。その時に絶望的だったのに絶望せず賛美を歌ったことを覚えて出しました。それでも慰めができなかった。そして否定的で悲観的な質問が相次いで起きました。
10 節で 12 節に記録されるのを**「 その時わたしは言う、「わたしの悲しみはいと高き者の右の手が変ったことである」と。わたしは主のみわざを思い起す。わたしは、いにしえからのあなたのくすしきみわざを思いいだす。わたしは、あなたのすべてのみわざを思い、あなたの力あるみわざを深く思う。」**しました。
今までのすべての心配、不安、悲しみ、欲求不満、疑いの原因が外におらず、自分の弱さにあることを悟って認めた瞬間、彼は一大転機に入りました。 疑いが濃い霧がいち早く取り入れました。落胆と挫折の黒雲が風に押されて行って青空が含ま出始めました。彼は、神が力の手で彼の人々の世話を見た昔の奇事を覚えて深く黙想することにより、神が行なわれたことを示すようになっています
13 節から 20 節に記録されるのを**「 神よ、あなたの道は聖である。われらの神のように大いなる神はだれか。あなたは、くすしきみわざを行われる神である。あなたは、もろもろの民の間に、その大能をあらわし、その腕をもっておのれの民をあがない、ヤコブとヨセフの子らをあがなわれた。（セラ］ 神よ、大水はあなたを見た。大水はあなたを見ておののき、淵もまた震えた。雲は水を注ぎいだし、空は雷をとどろかし、あなたの矢は四方にきらめいた。あなたの雷のとどろきは、つむじ風の中にあり、あなたのいなずまは世を照し、地は震い動いた。あなたの大路は海の中にあり、あなたの道は大水の中にあり、あなたの足跡はたずねえなかった。あなたは、その民をモーセとアロンの手によって羊の群れのように導かれた。」**としました。

13 節で詩篇の記者は、神の聖なる偉大おら文ました。14 節から 19 節まで詩篇記者は、神が行っている奇事を考えてみました。イスラエルの民がエジプトから出発し、カナンの地に行く途中で、紅海の前に至りました。これ以上の進むことができない状況になるとき、パルが心を変えて、エジプトの戦車と騎兵を率いて立って、イスラエルの民を捕らえるために走ってきました。進退幽谷に陥って完全に絶望したとき、神が奇事を施しました。神が手を伸ばして、働いて水が割れて左右に壁になって、イスラエルの民が渡っていきました。これを見て続く来たエジプトの軍隊の上に水が手会ってみんなが収蔵されました
イスラエルの民が荒野を行進するとき、神様が良い羊飼いが羊を導くように民を導いたので日々の糧があった
自分の服がくたびれない 靴もくたびれない 、足が痛かないでした。神が雲の柱と火の柱で安全に守られました。神が行なわれた昔の奇事を思い出して深く黙想しましょう不安だった心に安心感がいっぱいになりました。彼をいやがらせ愚かな質問は、むしろ、信仰を告白する機会を提供することになりました
聖徒の皆さんは、詩篇の記者が質問した六つの愚かな質問に賢明な答えをしてください。「主は永遠に捨てますか？」決して捨てません。″再び恵みをあたえられないのか？」そうではないです。神は恵み施されることを喜ばれます。「そのいつくしみを永久にあたえられないのか？」そうではないです。神のいつくしみは限りがないです。「その許諾なさるのを永久にあたえられないのか？」そうではないです。神は言葉の契約を必ず成し遂げられます。「神は恵みと慰めを忘れましたか」そうではないです。神は忘却がありません。「怒りでそのあわれみを防ぎましたか」そうではないです。神は自分を恐れる者をあわれんでくださいます

患難と苦境に直面するとき、それは誰のためであり、何に起因するものであるか、重要なのは、あなたの心を守り、信仰を守ることです。あなたの心に憂いと悲しみ、疑いと不安、落胆と挫折が座するのがないでください。もしそのようなことを定着すれば、それは誰のせいでもない自分が柔らかいのせいです。その際には自分の軟弱を叱るしてください。そして　いと高き者の右手の日に、すなわち主の昔の奇事を覚えて主のすべての仕事を黙想し 主が行われたのを深く考えてください。そして、その行った仕事を表明してください。神がどんな方なのかを明らかに示しなさい。そして心に浸透する疑いと不信に属する愚かな質問に対して、信仰に属する賢明な答えに断固として処理してください。